

大すきなおじいちゃん

平元拓海ひらもと たくみ

「サブーン！」ぼくはおじいちゃんと、せんとうに行くのが大すきです。おじいちゃんが入る大きなおふるは、ほかの家ぞくのだれと入るより不思議と気もちよく感じます。

「たくみーふる行くか」

と声がしたら、ワクワクします。おじいちゃんを一人じめして、ギヤーギヤーさわぎながら、水ぶろに入ると、頭のとっぺんまできーんとします。ぼくと、おじいちゃんの特長な時間です。

いつものようにおふるに入って、家に帰ったら、とつぜんおじいちゃんがたおれました。おばあちゃんがきゅう急車をよびました。家の中が急にバタバタして、ぼくは見ていることしかできませんでした。はじめて間近で見るきゅう急車は、とてもとても大きく見えました。おばあちゃんが

「お母さんがむかえにくるまでおるす番していてね」とさげました。ぼくは、ソファにすわって犬のちゃこちゃんをぎゅうっとだきしました。お母さんがむかえに来てくれたら、今度はなみだがとまらなくなりました。そんなぼくを

ちゃこちゃんがきよとんとした顔で見っていました。

おじいちゃんは、二週間くらい入院して、家に帰ってきました。元気になったおじいちゃんを見て、おじいちゃんに

「死んでしまうとって心配したよ。」

と言ったら、

「じーちゃんも死ぬかと思ったよ。」

と、ぼくの頭をわしゃわしゃとなでてくれました。それを見て、みんなが笑っていました。ぼくも、つられて笑いました。

ぼくは、おじいちゃんがもうすこし元気になって、また一緒におふるに行くのを、楽しみにしています。車の中で話す会話も、冷たい水ぶろも、おじいちゃんのせなかをあらつてあげるのも、おふる上がりに、かんばいして飲むジュースも、いつもおじいちゃんが、そばにいてくれたからこそその幸せだったんだと気がつきました。

おじいちゃんいつもありがとう。これからもずっと一緒におふるに入ろうね。